

## 楽しい防災講習——教員免許状更新講習として

シビルNPO 連携プラットフォーム サポーター

(社) 土木学会 シニア社会貢献グループ 幹事 渡口 潔



近頃は災害が起こるたびに、事前の備え、起こった後の対応(自助・共助・公助の大切さ)などが人々の関心を集めるようになってきました。このようなことから、土木学会その他の関係団体で防災への啓蒙がなされていますが、個々人の意識にまではなかなか届いていないのが現状です。

一方、小中高の教員には、2年間で30時間の教員免許状更新講習が義務付けられており、防災に関する講習をこの免許更新講習に組み入れれば、先生方を通じて、子供たちへの防災教育が進むことが期待されます。

そこで土木学会では、更新講習を数多く開講している筑波大学の防災担当と共同で、防災講習「実習と実験による役に立つ防災教育」を2017年度から実施しています。

受講者は、主として関東の小中高の先生方40名です。一般に更新講習は、6時間(うち1時間弱は試験時間)もの長時間にわたるため、講師からの一方的な講義だけでは受講生に嫌われる傾向があり、また防災意識を高めってもらうためにも、実験、実習、見学などを織り混ぜた楽しい講習としました。

会場は国の防災研修施設「そなエリア」をお借りし、建物模型の制作と振動実験、防災施設の貼り込みによる強い街づくり演習、防災演習カードによる追体験グループ討議、など、受講生を飽きさせないセッションがてんこ盛りです。これらのセッションには土木学会のシニアグループから10名ほどが助っ人として班ごとの討議・実験を手伝ってもらっています。

また「そなエリア」での「地震体験ツアー」と併設されている内閣府の災害対応指令室(映画「シン・ゴジラ」のロケに使用されました)の視察も行い、防災対策が立体的に理解できるように考慮しています。



会場の「そなエリア」(東京都江東区有明)



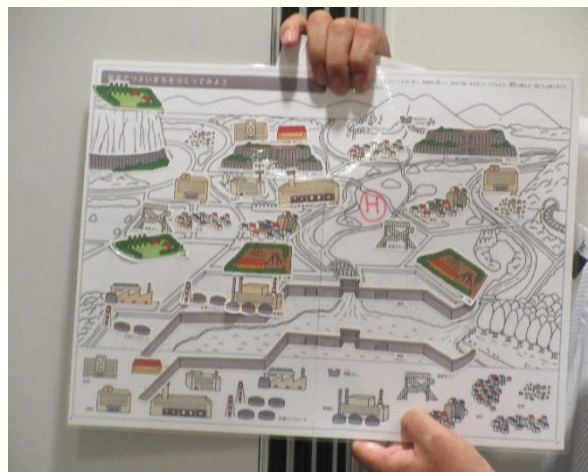
紙模型の制作と振動実験



防災施設の配置を議論

以下は、セッションの一覧です。合計で 360 分間＝6 時間の長丁場です。

- 1) 防災全体についての講義 35 分
- 2) 防災アニメ「津波てんでんこ」 15 分
- 3) 受講者自宅の防災診断チェック 15 分
- 4) 建物の紙模型の制作と振動実験 45 分
- 5) ガイド付き地震体験ツアー・災害対応指令室の見学 85 分
- 6) 災害追体験カードゲーム 60 分
- 7) 街の白地図に防災施設の貼り込み演習 65 分
- 8) 認定試験(60 点以上が免許講習に合格) 40 分



防災施設の貼り込み

この講習は幸い、好評であり、今年も 8 月 2 日（金）に実施が決まっています。



地震体験ツアー



内閣府の災害対応指令室

文科省の学習指導要領が改正され、2020 年度からは義務教育で防災教育が必須となりました。各大学（特に教育大学）においては、数多くの教員免許状更新講習が開講されています。ほかの大学でも、防災関係の講習が開かれ、教員と子供たちへの防災意識の向上が進むことを望みます。

皆さん、この楽しい防災講習を見学にいっしょにいませんか？

連絡先 [k.watariguchi@seibupros.jp](mailto:k.watariguchi@seibupros.jp) 渡口（（株）西武プロパティーズ）